

九州大学 学士総代 答辞

平成 29 年度九州大学学位記授与式に当たり、学士 2607 名を代表いたしまして、お礼とご挨拶を申し上げます。

本日は、私達卒業生のために、このような盛大な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。

久保千春総長をはじめ、ご多忙の中ご臨席賜りました先生方、ご来賓の皆様方、そして保護者の皆様方に、卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

また、久保総長から温かい訓辞と激励のお言葉を賜り、卒業生一同、身の引き締まる思いでいるとともに、感謝の念でいっぱいでございます。

卒業という節目を迎える今、これまでの大学生活と、待ち受ける未来への思いが募ります。

この 4 年間、研究だけでなく、学内外での活動も含めて、非常に充実した学生生活でした。しかしながら現在、この場に立つまでの道程は、決して平易なものではありませんでした。

私の所属する課程は、自分のやりたいことや学びたいことの実現に向けて、自分の意思で学び創り上げるといふ、独自のプログラムで、学生の研究は、工学・水産分野から芸術・社会教育に至るまで多岐に渡っています。その根幹はどれも同じで、複数の分野での学びを生かし、社会の問題にアプローチしていくことにあります。

自らの力で異なる分野を体系的に学んでいかなければならないこと、独自の切り口でそれらを組み合わせ、社会に還元しなければならぬこと…研究の難しさを痛感し、自身の方向性で悩み、躓き、ルールや枠組みを羨ましく思うこともありました。

そんな困難を乗り越えられたのは、尽きることのない問いと闘い続けることが出来た、九州大学の素晴らしい環境のおかげです。

多くの学生が、この学部時代に、既存のモノ・コト・ヒトとの様々な出会いを果たし、その積み重ねをもって自己を研鑽してきた一方で、それだけでは打破することのできない研究や社会の大きな壁に直面してきました。そんな時、それを解決してきたのは、「自分はどうすればいいか」「自分に何ができるか」という問いとその解の模索の繰り返しだったはずで

学問の世界だけではなく、「自分だったらどう考え、どう行動するか」、問題を自分のこととして捉えることは、これからの未来を切り開いていく力になると確信しています。そして、学びを蓄積するにとどまらず、実際の行動を以って他者に働きかけていくこと、追究していくことが重要だと強く思います。

自分の意思で選択し、自由な発想で物事を考え、日本や世界が直面している多くの課題について、それぞれの分野を学び深めた者として、何ができるか、何をすべきか常

に意識して解を模索することが、卒業生となる私たちの使命であると感じます。

私達は今日、この九州大学を卒業します。今後さらに学問の高みを目指す者も、就職し社会貢献に邁進する者も、様々な形で各々が決めた道を歩んでいきます。卒業し、これまで以上に完全な答えや手助けが得られない困難な状況であっても、自分なりの「問い」を形にしていかなければなりません。これからの人生の岐路において、その都度、この大学での学びの意義を噛み締め、一人一人が託された使命を果たすため、一歩ずつ成長していきます。その歩みを以って、九州大学にとって、社会にとって、そして世界にとって、より良い未来を切り開いていくことを、ここに決意致します。

まだまだ未熟な私たちですが、本日無事に卒業の日を迎えることができました。これもひとえに親身に向き合い、ご指導頂いた先生方、学校生活を多方面からご支援頂いた職員の皆様、苦楽を共にした友人たち、家族をはじめ、多くの方々の支えがあってこそのことです。皆様方には心よりお礼申し上げます。

名残はつきませんが、皆様のますますのご活躍とご多幸をお祈りするとともに、九州大学の一層の発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

平成三十年三月二十日

九州大学学士総代

江頭史歩